

会 議 録

会議の名称	令和3年度 茨木市子ども・若者支援地域協議会 代表者会議
開催日時	令和4年2月10日(金) 午前10時30分～午前11時30分
開催場所	市役所南館8階中会議室
出席者	<p><外部機関></p> <p>天野大阪府立茨木支援学校准校長、上田ひきこもり・家族支援ネット代表兼不登校・親の会「いっぽ」代表代理、内田大阪府立福井高等学校長、杉山大阪府立春日丘高等学校(定時制)主席、花野茨木工業安定所長、樋口茨木市社会福祉協議会事務局次長、樋口大阪府吹田子ども家庭センター所長、路川大阪府茨木保健所主査</p> <p>(50音順)</p> <p><内部機関></p> <p>藤井人権・男女共生課参事、澤田福祉総合相談課長、莫根生活福祉課長、永友健康づくり課主幹、中井子育て支援課長、河原商工労政課長、松本社会教育振興課長、田代学校教育推進課指導主事、新川教育センター所長</p> <p>(機構順)</p> <p><指定支援機関></p> <p>竹中茨木市子ども・若者自立支援センター管理者</p>
欠席機関	茨木市中学校、大阪府立箕面東高等学校、茨木市更生保護サポートセンター、三島地域若者サポートステーション、大阪府茨木少年サポートセンター
事務局 (調整機関)	山寄こども育成部長、吉田こども政策課主幹兼子ども・若者支援グループ長
案件	<p>■会議案件</p> <p>(1) 茨木市子ども・若者支援地域協議会の取組について</p> <p>(2) ひきこもり、不登校に関する相談の現状について</p> <p>(3) ひきこもり支援ガイドブック及びひきこもり支援動画について</p> <p>■その他</p>
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・茨木市子ども・若者支援地域協議会の取組・・・資料1 ・ひきこもり、不登校に関する相談の現状・・・資料2 ・ひきこもり支援ガイドブック ・茨木市相談機関への道しるべ ・出席者名簿 ・配席図

発 言 者	発 言 内 容
事務局	「令和3年度茨木市子ども・若者支援地域協議会代表者会議」を開催する。
こども育成部 山寄部長	<挨拶>
事務局	<p data-bbox="403 360 783 394"><出席及び欠席機関の紹介></p> <p data-bbox="403 456 1262 490">案件（1）「茨木市子ども・若者支援地域協議会の取組について」</p> <p data-bbox="403 553 991 586">事前配布した資料に基づき、事務局より説明</p>
くろす 竹中管理者	<p data-bbox="403 651 1230 685">案件（2）「ひきこもり、不登校に関する相談の現状について」</p> <p data-bbox="403 696 1409 730">案件（3）「ひきこもり支援ガイドブック及びひきこもり支援動画について」</p> <p data-bbox="403 792 1241 826">ひきこもり、不登校、ニート等の相談の現状について説明する。</p> <p data-bbox="375 842 1428 969">日頃から、茨木市子ども・若者支援地域協議会の参加者が所属している機関の支援者及び職員には日常적으로お世話になっている。この場を借りてお礼申し上げる。</p> <p data-bbox="375 985 1428 1205">茨木市子ども・若者自立支援センター「くろす」開設からもうすぐ6年を迎えようとしている。安定的な事業運営と継続的に効果を出していくことを目的に各機関と連携しながら日々業務に携わってきたが、コロナが始まってから事業の特性や相談者の状態等に非常に変動が見られるので、その中で気づいたことや思うことを説明する。</p> <p data-bbox="375 1220 1428 1440">「くろす」の事業概要について、対象者は社会生活を送る上で困難を抱える子ども・若者（15～39歳）とその保護者であり、専門のカウンセラーや臨床心理士が悩みを整理し、社会的自立に向けた個別カウンセリング、グループカウンセリング、居場所の提供を行っている。居場所のプログラムは近隣のローズWAMで実施されているユースプラザ「エント」と連携しながら運営を行っている。</p> <p data-bbox="375 1456 1428 1543">「くろす」の居場所は、パズルやゲームを一緒に行う等の個別的なレクリエーションが主となっており、ピアサポート的な動きも含めた居場所提供である。</p> <p data-bbox="375 1559 1428 1686">プログラムは各種無料である。元々有料の事業として始まったが、支援ニーズの増大から無料になった。利用者の定員等は設けていないが、現在相談依頼が増えているので、初回問い合わせから面談に至るまで2週間から1か月はかかる。</p> <p data-bbox="375 1702 1428 1921">所在地は、茨木神社の裏手側に設けている。「センター」という名前だが、見た目は一軒家の様相をしているので、センター感はあまり無い。開所日は、月曜日、水曜日～土曜日で、火曜日と日曜日は休所している。職員体制は、常勤5名、非常勤2名の体制で実施しており、常勤5名のスタッフで相談、居場所、訪問、事務を行っている。</p> <p data-bbox="375 1937 1428 2065">2019年度は非常に相談が増えた。様々な事件が起きた年であり、ニュースや報道の影響を受け、保護者が相談に重きを置いたという背景がある。コロナ禍始まりの年である2020年度は、2019年と比べて相談件数は半分以下にな</p>

った。また、この時期くらいから「くろす」は市広報の掲載回数を減らしている。各地域にユースプラザが合計5か所展開されており、地域の課題は地域で支援をしていくという形をつくるためにも一旦「くろす」の広報機会を減らしているが、ホームページや「茨木市相談機関への道しるべ」など、様々なものを通じて「くろす」につながる。今のところ「くろす」に来るのは比較的相談に対して意欲がある親や当事者が中心になっている。「どこに相談したらよいかわからない」という方に関しては地域のユースプラザが受け皿になり、「くろす」はユースプラザを後方から支援者支援を通じてサポートする流れを取っている。

今年度（2021年度）については、現時点で既に25世帯の登録世帯の純増があり、面談件数も昨年度より上昇傾向にある。これは、保護者がコロナ禍に慣れてきて、相談につながってくる世帯が増えてきていると考えている。微増という実績を受けて、事業運営を上げていく所存である。

研修実績については、コロナが始まってからリモートによる研修開催が非常に増え、小学校、中学校、その他支援機関など、多くの機関や支援者が参加してくれた。決まった時間に決まった場所に集まるという行為が、現場にとっては負荷であったのかもしれないと改めて感じた。日々の業務がある上で他機関の取組に参加することは本当に大変なことだと思うので、なるべく参加の負荷を軽減する取組を進めていきたい。また、参加者のプライバシー保護のため研修内容の録画は行っていないが、講師が話している声は録音している。今後、研修に参加できなかった人たちに向けて、編集した講義内容を発信することを検討しているので、隙間時間で研修動画を見ていただきたい。次年度にも研修を開催する予定だが、参加不参加に関わらず、情報が手に入れられるような仕組みを整えていきたい。

成果と課題について、大きな話としては「ひきこもり支援ガイドブック」と動画を作成した。利用者から「支援機関にたどり着くまでの情報が少ない」という話が上がっていたので、支援機関に行く前に支援の実務や実支援の内容に沿った支援情報を手に入れられることを目的にガイドブックを作成した。今年度は当ガイドブックの内容を落とし込み、更に多くの方に見ていただけるような形で発信をしていきたいと考えている。ガイドブックの作成にあたり、「ひきこもり」という単語を出さないと本当に必要としている人に届かず、一方で「ひきこもり」という単語が当事者に対してレッテルを貼るような行為にもなるため、「ひきこもり支援ガイドブック」という名前に非常に悩んだが、ひきこもりの当事者よりもひきこもりを支援する人やひきこもりの子を見守っている家族に届けられるよう、あえて「ひきこもり支援ガイドブック」という名前にした。当事者が読んでも痛みを感じないような内容になっているが、家庭の中でこのようなガイドブックを開いて見るという行為自体が新たな衝突につながりかねないという事情もあるので、動画が完成したらイヤフォンを着けて布団の中で見ることができると期待している。

NHKでひきこもりを題材にした「こもりびと」というドラマが放映されたことがあり、このときは「ひきこもり支援ガイドブック」に対するアクセス流入が

非常に増大した。茨木市内からの問い合わせはもちろん、滋賀や京都などの近隣の府県からの問い合わせもあった。このようなガイドブックや動画はそれ自体が支援に成り得るので、計画的に運用していきたいと思っている。

数値実績の推移については先程申し上げたとおりであり、特徴としては、コロナに慣れたということがひとつと、もうひとつは、例えば昨年度に大学を卒業した人のひきこもりについて、「一旦はコロナだからそれほど問題はないと捉えていたけれども、それが一年経ってもまだ動かない、どうしたらよいか」という相談が増えてきている。皆がある意味コロナ禍にいる状況だからこそ安心感を持って見守っていられたことが、社会や経済が動き始めたことで危機感が高まり、3月～4月以降から増えていくのではないかと考えている。「くろす」の事業は常に一定の登録や流入がある訳ではなく、9月～10月や3月～4月に集中するため、少し遅れてそのような危機感が表出してくると考えている。この事象は「くろす」だけでなく他の参加機関においても見られるかと思うので、引き続き連携をお願いしたい。

日常的に協議会構成機関の支援員と連携して様々なケースの対応をしており、機関連携も非常に大幅に増加している。ひきこもり、不登校というものはひとつの属性にすぎないが、その背景には、貧困、精神障害、発達障害等の問題がある。関係機関と連携してケースカンファレンスや支援を進めることにより、コロナ禍においても進学・就労の決定や作業所の継続的利用の話が出ており、非常に感謝している。最近ではコロナ禍で様々なことが停滞しているため、市の就労体験プログラムや茨木市内の事業所が実施する職場実習の事業に参加している。今後とも連携をお願いしたい。

研修機会の創出については先ほどお伝えしたとおりだが、リモートでは対面による会話機会が失われる。実際に言葉を交わしながら実支援の効果を体感するワークプログラムが無くなっており、リモートで実施する研修の内容や概要はどうしても表層を捉えるようなものになる。より実践的な内容は、またコロナが落ち着いた後に再開していきたい。

新型コロナ対策の徹底という面では、障害等を背景とした感覚過敏の問題等もあり、マスクが着けられない、消毒液を触ることができないという人は一定数存在している。そのような人にどこまでマスク着用や消毒を強制するかについてはケースバイケースになるが、互いに歩み寄るような形で事業を実施している。窓を開けっぱなしにするなど様々な工夫のもと運営しているので、そのような背景のもとに相談を行っているのご理解いただければ幸いである。

続いて、現在作成中のひきこもり支援動画を再生する。

<ひきこもり支援動画再生>

このような形で、現在ひきこもり支援動画を作成している。真面目な内容でもより多くの人が見やすい形で届けたいと思い、あえて「いちごちゃん」を使用した。「いちごちゃん」の声は機械音声でできているため、内容の変更や追加が可

	<p>能である。また、動画でしかできないような見せ方も組み込んでいるので、動画を通じて支援の内容や情報を伝えていきたい。1本の動画で大体4分程度なので、通勤途中やトイレの間に視聴できるかと思う。全部で40本あるので、完成したら視聴をお願いしたい。</p>
事務局	<p>質問や意見等があれば、お願いしたい。</p>
社会福祉協議会 樋口事務局次長	<p>社会福祉協議会の福祉りんかいセンターで職業体験を提供している。大阪府下の福祉施設などが登録されており、茨木市内の高齢者の事業所も受け入れを積極的にやっている。また、ボランティアスタッフと交流ができる「ボランティアカフェ」もあるので、居場所提供の一環として情報提供する。</p>
事務局	<p>今後とも当協議会については、社会生活を営む上での困難を有する子ども・若者に対し、各々の専門性を有する支援機関が必要に応じて連携し、包括的に支援できるよう、円滑な運営を図っていく。</p> <p>それでは、令和3年度茨木市子ども・若者支援地域協議会代表者会議を終了する。</p>